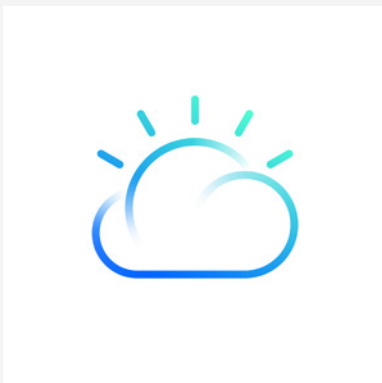




英会話事業を支える基幹システムの変化対応力をクラウドで強化。 オンプレミスと同様の管理者権限で使えるIBM Cloudによりアプリケーション を改修なしでスピード移行し、運用保守とコスト負担の軽減を実現

NOVAホールディングスでは、中核の英会話事業を支える基幹システムのITインフラを、ビジネス環境の変化への対応力を高める目的でオンプレミスからクラウドに移すことを決めました。同社は検討の末、オンプレミスと同様の管理者権限で高い自由度を備え、冗長性やコストの面でも他社サービスと比べて魅力的な「IBM Cloud」を採用し、運用保守の手間とコストを大きく削減します。また、既存アプリケーションの改修なしでOracle Databaseから互換データベース製品に移行し、ソフトウェアライセンス料の大幅削減も果たしました。

【導入製品・サービス】 ● IBM Cloud ベアメタル・サーバー ● IBM Cloud 仮想サーバー



課題

- オンプレミスで運用してきた英会話事業の基幹システムをパブリック・クラウドに移行し、ビジネス環境の変化への迅速な対応、運用負担やコスト負担の軽減を実現する
- これまで利用してきたOracle Databaseと同等のデータベース環境を、パブリック・クラウド上でより安価に実現する

ソリューション

- IBM Cloud ベアメタル・サーバーにより、Linux上で稼働していた基幹システムをそのままパブリック・クラウド上に移行
- Oracle Database互換製品を利用し、アプリケーションの改修なしでデータベースをクラウドに移行

効果

- 管理者権限を必要とする自社開発システムをクラウド向けに改修することなく短期間でクラウド移行
- ハードウェア運用保守の手間やコストの負担がなくなり、システムの監視作業も大きく簡素化
- システムをオンプレミスで5年間持ち続ける場合と比較してトータルコストを約2割削減予定
- Oracle Databaseと比べてデータベース・ライセンス費用を約10分の1に削減

【お客様課題】

ビジネス環境の変化への迅速な対応を目指し、
英会話事業を支える基幹システムのクラウド移行を決断

「駅前留学 NOVA」や「英会話 geos」など、いつでも、どこにいても語学を学べる多彩なサービスを提供しているNOVAホールディングス株式会社（以下、NOVAホールディングス）。近年は子供向けの語学サービスとして「NOVAバイリンガルKIDS」や「ジオスバイリンガルスクール」の拡充を進める一方、オンラインレッスン「お茶の間留学」、「ジオスオンライン」など、PCやスマートデバイス、Skypeなどを活用した語学教育サービスの提供にも力を入れています。そんなNOVAホールディングスのさらなる成長にとってITは不可欠なツールだと話すのは、同社の村瀬英祐氏です。

「例えば、オンラインによる語学学習の支援や、お客様がご自身の学習状況をいつでも確認できるポータル・サイトの提供など、顧客接点の強化でITを積極的に活用しています。また、年々加速するビジネス・スピードに追随していくために、システムの開発や運用を内製化しました。ITインフラについても、ビジネス環境の変化への迅速な対応と運用負担やコスト負担の軽減を目的に、近年はオンプレミスからクラウドへの移行を進めています」（村瀬氏）実際にNOVAホールディングスではグループ各社のサービスでPaaSを中心にパブリック・クラウドを活用してきました。そして2016年、ハードウェアが保守期限を迎えるのを契機に、いよいよ同社の中核ビジネスの1つである英会話事業を支える基幹システムのクラウドへの移行の検討を開始。この基幹システムは顧客情報や契約情報に加えて、講師や講座の管理、受講予約の機能を備えるなど、まさに事業の根幹を担うものであり、移行プロジェクトに失敗は許されません。村瀬氏は移行先のクラウド・サービスについて慎重に検討を重ねました。

【ソリューション】

管理者権限を必要とする既存アプリケーションもそのまま利用できる
高い自由度を備え、冗長性やコストの面でも魅力的な
IBM Cloud ベアメタル・サーバーを採用

英会話事業の基幹システムを移行するクラウド・サービスには、絶対に外せない要件があったと村瀬氏は振り返ります。

「この基幹システムはLinux上にスクラッチで開発したものであり、実行に際しては他システムとの連携のためにOSのroot権限が必要となります。したがって、移行先のクラウドサービスでも、オンプレミスと同様のroot権限が付与されることが必須要件でした」（村瀬氏）

しかし、多くのクラウド・サービスは仮想サーバー型で提供されており、オンプレミス環境同様のroot権限を得ることはできません。村瀬氏はこの要件を満たすサービスを探した末に「IBM Cloud ベアメタル・サーバー」を候補に据えます。

「オンプレミスと同様のサーバー環境をパブリック・クラウドで利用できるIBM Cloud ベアメタル・サーバーならroot権限も得て高い自由度で使えますし、冗長性やコストの面でも他社サービスと比べてメリットが大きいと判断しました」（村瀬氏）

また、NOVAホールディングスより導入の相談を受けた株式会社ミライト情報システム（以下、ミライト情報システム）の岩宮伸幸氏も、NOVAホールディングスの要件にIBM Cloud ベアメタル・サーバーは最適だったと振り返ります。

「仮想サーバーのみならず、ベアメタル・サーバーまで用意している点がIBM Cloudの大きな特徴です。ベアメタルならば、お客様は必要なシステム環境を自由に構築できますし、用途に合わせて仮想サーバー型のサービスよりも高いパフォーマンスが得られます」（岩宮氏）ところが、ここで1つ問題が発生します。基幹システムで利用していたOracle Databaseのライセンス体系の変更により、クラウドへの移行でライセンス料が倍以上に跳ね上がることがわかったのです。

そこで、NOVAホールディングスはIBM Cloudへの移行を機にデータベースも変更することを決め、移行先製品の選定に入ります。著名なオープンソースプロダクトや商用製品が

オンプレミスと同様の
サーバー環境をパブリック
クラウドで利用できる
IBM Cloudベアメタル・
サーバーならroot権限
も得て高い自由度で使え
ますし、冗長性やコスト
の面でも他社サービスと
比べてメリットが大きい
と判断しました



NOVAホールディングス株式会社
村瀬 英祐氏

候補に挙がりますが、同社が重視したのがコストと「Oracle Databaseとの互換性」でした。「たとえライセンス料が安くても、Oracle Databaseとの互換性が低ければアプリケーションの改修やテストで多くのコストがかかります。ハードウェアの保守期限が迫っていたこともあり、移行を短期間で行う必要もありました」(村瀬氏)

そうしてデータベース選定に悩むNOVAホールディングスにミライト情報システムが提案したのが、「Oracle Databaseとの間で99%以上の互換性を確保」を謳い文句とする互換データベース製品でした。「最初は『本当かな?』と思いました」という村瀬氏ですが、実際にデモンストレーション見て納得します。

「検証用サーバーに当社が利用しているアプリケーションの一部をコピーし、接続先を互換製品に切り替えたところ、何の問題もなく動作する様子を見て、互換性の高さに確証を得ました」(村瀬氏)

【効果/将来の展望】

長年煩わされてきたハードウェアの運用・コスト負担がゼロに。
5年間のトータルコスト試算でもオンプレミス時代から約2割削減

こうして2016年末にOracle Database 互換製品の採用を決めると、NOVAホールディングスは2017年1月にIBM Cloudの利用を開始。データベースの移行手順を策定して3月に移行を開始し、4月には全ての作業を完了します。「アプリケーションの改修が不要だったため、わずか1カ月で移行を完了できました」と村瀬氏は話します。

それから約1年半が経過し、IBM Cloud ベアメタル・サーバー上に移行した英会話事業の基幹システムは現在も安定稼働を続けています。データベースについてはOracle Database 互換製品のチューニングによって従来の環境よりも性能が向上し、運用作業はOracle Databaseを担当していた技術者が引き続き対応しています。

IBM Cloudへの移行効果を、村瀬氏は次のように評価します。

「以前はハードウェアに何か問題が起きるたびにデータセンターに駆けつけていましたが、現在はそうした負担やコストがゼロになりましたし、IBM Cloudのポータルを使うことでクラウド上のシステムの監視作業も簡素化されました」

また、コスト面の効果も大きいといいます。

「ご提案いただいた互換製品を採用したことで、ライセンス料を中心にコストも大きく削減できました。Oracle Databaseをバージョンアップする場合と比べて10分の1程度に抑えられたのではないかと思います。また、『IBM Cloud + Oracle Database 互換製品』の組み合わせで5年間のトータルコストを以前のシステムと比べると、約2割の削減効果が出ています」(村瀬氏)

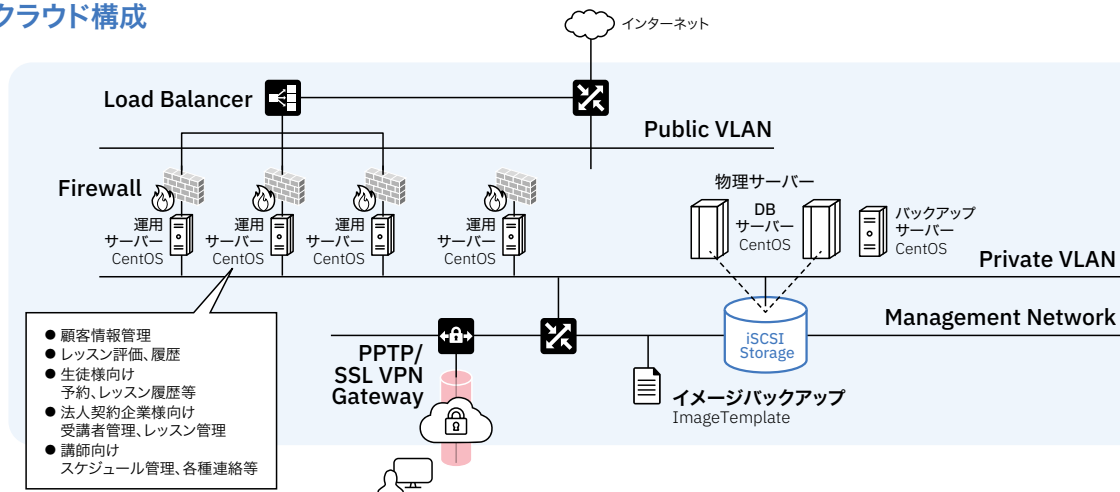
一方、ミライト情報システムの岩宮氏は、「お客様に最適なかたちでIBM Cloudをご利用い

仮想サーバーのみならず、ベアメタル・サーバーまで用意している点がIBM Cloudの大きな特徴です。ベアメタルならば、お客様は必要なシステム環境を自由に構築できますし、用途に合わせて仮想サーバー型のサービスよりも高いパフォーマンスが得られます



株式会社ミライト情報システム
エンタープライズ営業部
岩宮 伸幸氏

クラウド構成



ただけるよう、個々の課題の解消をお手伝いすることも私たちの重要な務めです。今回は Oracle Database 互換製品をご活用いただくことでコスト・期間の面で大きな効果を得て、すでに IBM Cloud をご利用いただいている他の多くのお客様と同様に安定して基幹システムを運用いただいていることに安堵しています」と話します。

そして最後に、村瀬氏は今後の展望を次のように語りました。

「英会話事業は着実に成長を続け、利用者数も増加していることから、今後は増え続けるデータ量への対応が課題となります。お客様との密接なコミュニケーションを支えるツールの拡充、経営やマーケティングにおけるデータ活用も重要なテーマですが、ミライト情報システムの支援も受けながらこれまでに蓄積したノウハウも生かし、IBM Cloud の利用メリットを最大化しながら事業の発展を支え続けていきたいと思っております」



NOVAホールディングス株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-3-12
シーフォートスクエアセンタービルディング 9F
<https://nova-holdings.jp/>

NOVAホールディングス株式会社は、英会話では国内最多教室数の「駅前留学NOVA」や「英会話 geos」、また個別指導学習塾の「ITTO個別指導学院」、「みやび個別指導学院」、「がんばる学園」、海外留学の「Last Resort」など、それぞれ業界最大手の教育・学習支援企業を傘下に持つ教育の総合ホールディングスカンパニーです。



株式会社ミライト情報システム

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-23-2
<https://www.miraitystems.jp/>

株式会社ミライト情報システムは、クラウド・コンピューティング時代のお客様のニーズにお応えすべく2012年7月に誕生しました。ICTサービスを活用した豊かで幸せな未来の実現に向け、ソフトウェア・エンジニアリング&サービス会社としてお客様の課題を解決するさまざまな先進サービスを提供しています。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2019

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2019年4月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBMロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。